

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 26 年 8 月 28 日 (2014.8.28)

【公開番号】特開 2014-15631 (P2014-15631A)  
 【公開日】平成 26 年 1 月 30 日 (2014.1.30)  
 【年通号数】公開・登録公報 2014-005  
 【出願番号】特願 2013-226294 (P2013-226294)  
 【国際特許分類】

C 0 8 G 59/70 (2006.01)

C 0 8 F 2/44 (2006.01)

C 0 8 F 283/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 59/70

C 0 8 F 2/44 B

C 0 8 F 283/00

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 7 月 11 日 (2014.7.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱硬化性エポキシ樹脂を硬化させるためのアルミニウムキレート系潜在性硬化剤であって、アルミニウムキレート系硬化剤が、多官能イソシアネート化合物を界面重合させると同時に、ラジカル重合開始剤の存在下でラジカル重合性化合物としてスチレン、メチルスチレン、ブチルアクリレート、1, 6-ヘキサンジオールジアクリレートまたはトリメチロールプロパントリアクリレートをラジカル重合させて得た多孔性樹脂に保持されていることを特徴とするアルミニウムキレート系潜在性硬化剤。

【請求項 2】

アルミニウムキレート系硬化剤の含有量が、多官能イソシアネート化合物とラジカル重合性化合物との合計 100 質量部に対し、10～200 質量部である請求項 1 記載のアルミニウムキレート系潜在性硬化剤。

【請求項 3】

請求項 1 記載のアルミニウムキレート系潜在性硬化剤の製造方法であって、

アルミニウムキレート系硬化剤、多官能イソシアネート化合物、ラジカル重合性化合物としてスチレン、メチルスチレン、ブチルアクリレート、1, 6-ヘキサンジオールジアクリレートまたはトリメチロールプロパントリアクリレート、及びラジカル重合開始剤を、揮発性有機溶媒に溶解または分散させて得た油相を、分散剤を含有する水相に投入しながら加熱攪拌することにより、多官能イソシアネート化合物を界面重合させると同時にラジカル重合性化合物をラジカル重合反応させ、それにより得られる多孔性樹脂に、アルミニウムキレート系硬化剤を保持させることを特徴とする製造方法。

【請求項 4】

請求項 1 または 2 記載のアルミニウムキレート系潜在性硬化剤と、エポキシ樹脂と、シラン系化合物としてトリフェニルシラノールとを含有する熱硬化型エポキシ樹脂組成物。

【請求項 5】

アルミニウムキレート系潜在性硬化剤と、エポキシ樹脂と、シラン系化合物としてトリ

フェニルシラノールとを含有する熱硬化型エポキシ樹脂組成物の当該アルミニウムキレート系潜在性硬化剤の製造方法であって、

アルミニウムキレート系硬化剤、多官能イソシアネート化合物、ラジカル重合性化合物としてスチレン、メチルスチレン、ブチルアクリレート、1,6-ヘキサンジオールジアクリレートまたはトリメチロールプロパントリアクリレート、及びラジカル重合開始剤を、揮発性有機溶媒に溶解または分散させて得た油相を、分散剤を含有する水相に投入しながら加熱撹拌することにより、多官能イソシアネート化合物を界面重合させると同時にラジカル重合性化合物をラジカル重合反応させ、それにより得られる多孔性樹脂に、アルミニウムキレート系硬化剤を保持させることを特徴とする製造方法。

**【請求項6】**

請求項5記載の製造方法により得られるアルミニウムキレート系潜在性硬化剤と、エポキシ樹脂と、シラン系化合物としてトリフェニルシラノールとを含有する熱硬化型エポキシ樹脂組成物。

**【請求項7】**

エポキシ樹脂が、ビスフェノールA型エポキシ樹脂である請求項6記載の熱硬化型エポキシ樹脂組成物。